須賀川市教育研修センター・教育支援センターだより
「みち」
第138号
令和５年９月１５日 発行

「センター研修」にご参加いただきありがとうございました

夏休み中に実施された２８講座のセンター研修が終了しました。
今年度は延べ５４０名を超える幼小中の先生方に受講していただき、大きな成果をあげることができました。どの講座でも参加された先生方は、真剣に講義を聴き、演習などに意欲的に取り組んでいました。各々の課題意識をもって、積極的に複数の講座を受講した先生が数多く見られました。
今後の子どもの見方や授業改善に生かされ、「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」の充実につながることを期待しています。２学期以降も、教育研修センター・教育支援センターの各種事業を積極的にご活用ください。

コラム　学びと育ちのMI　《No.02》

できなかったことができるようになる、わからないことがわかるようになることは「発達」です。現在の保育や教育の理論的支柱の一人であるヴィゴツキーは、発達は今の水準「Ａ」から未来の水準「Ｂ」へのジャンプであり、他者とのかかわりによって変わるその幅（高さ）を「最近接領域」と呼んでいます。保育はもちろん授業における学びにおいても、他者とのかかわりによってジャンプ（到達）できる高さが変わります。
ヴィゴツキーは、発達においてあらゆる機能は舞台に二度登場する…社会的平面（心理間）と心理的平面（心理内）…と言います。発達は、一人ではできないことがまず他者とのかかわりにおいてできるようになり、同じことがやがて一人だけでできるようになるという順序で進みます。逆はあり得ませんが、教室ではまず一人で自分の考えをつくって、その後、意見交換しましょうと言ったりします。考えることが苦手な子は、いつまでたっても交流できません。学びは「個」ですが、考え学ぶためには他者が必要です。かかわりで考えられれば、やがて一人で考えられるようになります。
グループも同様です。グループでジャンプ課題にチャレンジする時、足場かけが大切と言われます。でも、一人で登れるように足場をかけたら、それはただの階段です。ヴィゴツキーは、一人で登れる幅は「Ａ→Ａ’」であり、それは「発達」ではないと言います。ドリル的な学習でスムーズに、あるいは容易にできるようになることは喜びはありますが、「Ａ→Ａ’」の範囲内です。
思考が深まるためには、異質な他者との出会いが必要です。ウィゴツキーは「外言」と「内言」を区別します。「外言」は文法的に整った発言で、例えば「発表」がこれにあたるでしょう。「内言」は心の内で動く言語で整った発言にはなりませんが、「つぶやき」として現れ出ます。
「つぶやき」が多い教室は豊かな教室に感じられますし、交わされ合っている教室は子どもたちの関係がやわらかくつながり、学びにも奥行きがあります。「内言」と「外言」の中間である「つぶやき」のレベルで交流し合うことは、思考が他者とのかかわりにおいて変容し、深まることを意味します。「外言」（発表）をいくら交流しても思考の変容や深まりはあまり生まれません。「学び」が深まりません。教師（保育者）も、そして子ども同士も「つぶやき」を聴き、聴き合う耳を持つかどうかが学び（育ち）のジャンプのあり様を決定づけます。
次回は「考える」ことが記憶をつくるエラボレーションについて。ではまた…。

第２回授業づくり研修会

９月８日（金）、須賀川市立第一中学校にて、第２回授業づくり研修会が開催されました。今回は、市内の中学校・義務教育学校（後期課程）数学科の先生方を対象に、算数科・数学科の授業改善に向けた研修を実施しました。会場校の浅岡教諭の３年数学科「２次方程式」の授業を参観した後、事後研究会を行い、生徒の学びの姿について語り合いました。

さらに、須賀川市教育支援・研修センター　庄司康生指導主事から講話をいただき、本市で実践している協同的な学びについて改めて理解を深めました。

その内容について、要点を紹介します。

学びをつくる基本

～Collaborative Group と教師の「見る」「聴く」「つなぐ」「もどす」を核とする授業づくり～

１「協同的な学び」の基本

〇４人グループ … 学びには他者が必要。

〇「聴く」　… ・つぶやきをいかに聴くか。
　　・子どもの声にならない声をいかに聴くか。

「つなぐ」 … ・４人グループをいかにつなぐか。
　　・あの子とあの子をいかにつなぐか。

「もどす」 … ・ひとつ前にもどしてあげる。（時間）
　　・一つ手前の段階にもどしてあげる。（内容）

〇教室を開き、子どもの姿を見合う授業研究

（そして、この基本があってこその…）

〇ジャンプ課題

２　グループのわな（注意点）　※やっていても逆効果

〇形だけのグループ（形から入ることは大事だが…）… グループにしたのに教師主導の授業

・子どもの思考・探究（学び）を奪ってしまう。

・つぶやきが交わされず、発表的会話ばかりになり、思考が深まらない。

〇教え合い

・教え合い≠探究＝学び合い

・子ども同士の関係を切断し、学びを阻害する。

３　教師は黙って！

〇教師は、子どもの学びの様子を「見る」、子どものつぶやきを「聴く」

・つながっていない子どもたち、わからないで困っている子ども。

・黙って見ていると必要なことが見えてくる。

「子ども同士をつなぐ」「グループと全体をつなぐ」「わからなさを共有する」

〇黙って個別（各グループ）にかかわり続けることは、ただ子どもたちが４人グループで話し合い学習を続けることになる。…全体が見えなくなる。

・教師がかかわらければ、子どもたちは遅れていくか、差が開いていくか、かかわれない子が孤立していくことになる。

４　ジャンプ課題

〇他者とのかかわりの中で学ぶ。

〇考えること、探究することによって、共有の課題が自分のものになる。

〇教師が、子どもをよく見て、カリキュラムマネジメントの力を持つことからジャンプ課題が生まれてくる。子どもの「今」を見ることを大切に。